

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行 NO	個人山行	報告者	石和加代子
年 月 日	2009年5月4日(月祝日・曇り)	2万5千	白馬町
山 名	北ア・八方尾根、唐松岳(2696.4m)		
体力度 = 3・普通	技術度 = 3・普通	藪漕度 = ない	道標 = ある
トイレ = 八方	展望度 = よい	三角点名 = 唐松谷	等級 = 二等三角点
はてしなく雪を抱いた山			
コース とタイム	4:00 長泉発 - 須山 甲府南 中央道 豊科 IC 白馬 8:20 ゴンドラリフト 八方駅 - 8:50 第1ケルン - 12:30~12:45 唐松岳頂上 - 15:10 第1ケルン - 15:40 八方駅 16:20 宿「ふもとや」着		
標 高 差	上り = ゲレンデトップ約1850m ~ 唐松岳2696m = 約846m 下り = 同上		
参 加 者	CL・後藤隆徳、中村圭吾、村上美恵子、石和加代子 = 以上4名		

ゴールデンウィーク後半、まだ明け方4時半だというのにサファリパーク周辺では開園待ちの長い車の渋滞を見て驚く。幸い私たちは順調に車を走らせ、4時間で白馬八方尾根スキー場駐車場に到着した。6日には天候が崩れる予報なので、初日に唐松岳登山に変更した。

八方アルペンライン往復乗車券を買い(2600円)、ゴンドラとリフトを3つ乗り継ぎ、八方尾根のゲレンデトップ第1ケルン標高1850m地点まで30分弱で運んでもらう。スキー客とは別れ、いざ登山隊の出発。閉まっている八方池山荘を右に見て、左に登っていくと、広い雪原が続く。第2ケルン、第3ケルンとあり、右にあるはずの八方池は雪に埋もれていた。ダケカンバ林(下の樺・上の樺)を抜けると、しだいに木立ちの少ない尾根になる。

時々雲やガスが出るが、右手むこうには白馬三山が連なっている。丸山(2420m)上から緩やかな稜線をすぎ、尾根の左側を巻くように進む。ただ、雪は腐っているので、気持ち的に不安はない。この上でアイゼンを装着。相変わらず苦しい上りが続く。

縦走路に上がる雪壁は、登山者が多く完璧なスタンスができ、心配することはなかった。縦走路から素晴らしい展望が開ける。

後藤講師から「13時には引き返すぞ、タイムリミットは13時！」と喝が入る。なぜならばリフトの最終時間は16時。その時間まで帰着しなければ、下山することはほぼ不可能。



結果的には15時40分だったから、日帰りは結構厳しいと言える。その証拠に殆どの登山者は唐松山荘宿泊である。

小屋横から最低コルに下って、最後の登りは足元ばかり見て必死に進む。ここまで来て時間切れはいやだよ～。ふと人の声がしたので、前に目を向けると中村さんと別のパーティーが停まっていた。やったー、頂上だ！12時半。タイムリミットにセーフ！（上り3時間40分）

山頂ははてしない眺望で、北に白馬三山、東に登ってきた八方尾根、南に五竜岳、そして西には雄大な剣岳（6月に「剣岳 点の記」の映画が上映される）・立山連峰が連なり、360度の大パノラマが望めた。

唐松山荘に泊まる人も多いようだが、私たちは日帰りのためリフトの最終16時に間に合うように来た道を下る。山荘上から下ってすぐの巻き道で、ザイルをつけるかどうかと迷うちょっと危ない箇所があった。下りは、登りとちがって怖いと感じることが多々ある。素人の私は直前にならないとそこがわからないから、困ったものだ。

雪原はどんどん下れる。グリセードもどきを試みるがうまくいかない。八方池あたりから観光客がちらほら見えてきた。15時すぎにリフト乗り場に無事到着できた。（下り2時間25分）登山道にはほとんどトレースができていて、雪はしまっていて歩きやすかった。途中でアイゼンの着脱をしたがピッケルは必携。風はなく、気温もおだやか。天候は曇っていたが、それでも雪の反射はすごく、唇の周りはパリパリだ。サングラスの下はすっかり雪焼けしてしまった。（後日ひと皮むけた）雪原は古い雪の中、きれいな新雪もあり模様ができていた。リフトを利用できるのでアプローチ時間は短くてすんだ。



下山する



タイムリミットを気かけなければお手軽なコースかもしれない。緩やかに延びる八方尾根はあまり目印のない雪原だったから、吹雪いたりしたら案外怖いだらう。季節によって山の様相が違う。

今回は花には出会えずに、雪を抱いた、山岳大パノラマに感動した。宿は白馬八方温泉の「ふもとや」。夕飯前に時間があつたので、反省会と入浴。

ところが、私は入浴直後に吐き気におそわれダウン。原因は3つ考えられたが、高山病でないことを祈る。充分休んで、翌日はすっかり元気になりました。



民宿の庭に咲いていた
戸隠升麻(トガクシショウマ)



無事帰着



唐松岳頂上